

令和5年度 府中市立府中第八小学校学校経営報告

令和6年3月5日

校長 松下 雄太

1 今年度の取組と自己評価 【今年度本校の目指す学校】

〈経営計画より〉

1 目指す学校像

創立67年の歴史と伝統を受け継ぎながら、ふるさと府中に誇りをもち、世界に活躍する府中っ子を育てる。保護者、地域の信頼に応え、教育目標である知・徳・体の調和のとれた児童の育成を目指す。

(目指す学校)

(1) 『子供たちのための学校』として、子供が第一の学校づくりを推進します。

毎日元気に楽しく生活し、よさを伸ばす学校 『人に優しく、自分に強く』

○子供たち一人一人を大切に見守る学校

・子供たちが安心して学べる学校(仲良く助け合う友達、話を聞いてくれる先生)をつくりま
す。

○よさや可能性を引き出す学校

・「やれば(成長)できる」ときめ細かく支援し、子供たちが自ら主体的に学ぶ姿勢を育ま
す。

(2) 教職員が、『チーム八小』として協働する学校づくりを推進します。

教職員が協働して、子供たちの成長を支える学校 『八小の子はみんなの子』

○教職員が互いに協働する学校

・子供たちの健全な成長に向けて教育活動の推進、保護者との連携に誠実に取り組ま
す。

○教職員が互いに高め合う学校

・子供たちのために授業改善や指導力向上に向けて自己研鑽に励みます。

(3) 保護者・地域と連携する学校づくりを推進します。(連携してこそ教育の効果があがりま
す)

保護者・地域と共に、子供たちを育てる学校 『共育(ともいく)』

○学校の役割(学力や体力の向上、豊かな情操の育成、規範意識の醸成)

○家庭の役割(子供たちの心の支え、愛情を注がれ温かく見守られる教育—家庭教育)

○地域の役割(学んだことを社会の中で実践する教育—ふるさと府中を愛し世界にはばた
く)

(1) 教育活動の取組と自己評価

①『令和の日本型教育の構築』に向けて、教員の指導力の向上を図る』について

〈経営計画より〉

- ・ 校内研究を通して、教員が主体的に研鑽に励み、学校全体の教育力を向上させる。
- ・ 自己の強みを確立し、先見性に富み、専門性の高い教員を育成する。
- ・ 児童に生きる力を育成するため、深い学びのある授業を提供する。
- ・ 一人一人の児童に、確かな学力を定着させる教育を推進する。
- ・ 保護者や地域、児童から信頼される教員を育成する。「教育は人なり」
- ・ 体罰禁止、個人情報保護など、服務事故防止を組織的に徹底する。

〈取組と自己評価〉

本校では、府中市研究奨励校の認定を受け、「主体的、対話的で深い学び」と「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」を目指して、授業実践に取り組んでいる。「教師は、授業で勝負する。」ことの大切さを指導し、「授業は、実践と参観でしか、高まらない。」と伝えながら、自己研鑽による授業改善の必要性を伝え、教員同士の協働的な学び合いを推進してきた。また、よい授業のための教材研究と、心を育てる児童理解は、教師の仕事の根幹であることを伝え、それ以外の校務改善に、校長として積極的に取り組み、教師としてのやりがいと誇り、楽しさを実感する学校を目指している。

授業においては、知識技能を習得する場面では、基礎基本の定着に向けて、教師中心の一斉授業を大切にしながらも、これからの将来に必要な能力である、思考力、判断力、表現力を伸ばすために、ペアやグループでの活動を通して、コミュニケーション能力を発揮する場面を増やし、子供たち同士の学び合いによる、いわゆる複線型の授業を推進してきた。また、東京学芸大学の森本康彦教授を、年間講師に招聘し、授業改善の方向性を定めてきた。その結果、子供たちが主体的に学び続けるためには、全体の学習課題を提示し、課題解決の見通しをもたせ、子供たちが自ら学びを操縦していく学習が必要であること、子供たちが自ら学習を振り返り、創意工夫を取り入れて、学びを深めていけるような、教師のファシリテートが大切であることが分かった。同時にICTを効果的に活用することで、子供たちが学びを操縦しやすくなったことが、実践で分かってきた。今後は、さらに学習環境を整えて、研究の成果を明らかにし、本校の子供たちに、確かな学力を身に付けさせていく。

最後に、今年度も人材活用面では、全学年算数で、少人数指導やTT指導のための教員を配置しているほか、英語担当教員の配置や、高学年理科での都講師による指導、1～3年生での音楽講師、市学習支援員を活用した授業補助など、子供たちの基礎学力の定着と、学びに向かう姿勢の向上に取り組んだ。授業を通して、児童の学習内容の理解度を把握しながら、担任と専科教員、特別支援教室教員、講師、支援員が、連携を密にして指導にあたってきた。今後も継続して、子供たちに学ぶ楽しさを味わわせ、主体的に学び続ける姿を目指して教材研究に取り組む。

② 「豊かな心を持ち、仲良く助け合う児童の育成と教員の資質能力を高める」について

〈経営計画より〉

- ・ いじめ暴力ゼロ」を目指し、児童が落ち着いて仲良く生活する学校をつくる。
- ・ 児童の人格を公平に尊重し、学校における自己有用感を高め、自己肯定感を醸成する。
- ・ 児童の成長の課題を理解し、家庭と連携して、よりよい成長へと導くよう実践する。
- ・ 「八小の子はみんなの子」という考えに立ち、全教職員で児童理解に努める。
- ・ 不登校傾向や配慮を要する児童への対応を組織的に強化する。

〈取組と自己評価〉

新校舎になり、安全に学校生活を送ることができるよう、細心の注意を払ってきた。廊下が広がったが、子供たちは落ち着いて歩行できている。建てたときより美しくと呼びかけて、環境美化にも取り組んでいる。新しい校舎を八小の宝物としてずっと大切にしていきたい。

「いじめ暴力ゼロ」をスローガンに掲げ、「人に優しく、自分に強く」を合言葉に、全校朝会での講話を通して、子供たちの心に語り掛けてきた。毎朝校門に立ち、たくさんの子供たちと、笑顔であいさつを交わし、休み時間も校庭に出て、鉄棒やなわとびを教え、コミュニケーションを図り、些細なことを見逃さず問題の未然防止に努めてきた。

教職員には、人権尊重教育を徹底し、互いを尊重し、思いやる人間関係に立脚した、学級経営を推進するよう指導助言を行った。毎朝、教室で温かく子供たちを出迎え、下校まで見守る体制をつくり、校務を改善し、会議を減らすなど、子供たちと教員が関わる時間を増やすことで、問題の未然防止に取り組んできた。

学校生活の中で、友達とのかかわり合いから生じる日常的な衝突は、社会性を伸ばすプロセスでもあり、問題の解決を通して、相手の気持ちを考える力を身に付け、より良い人間関係を作る場面でもある。しかし、解決の仕方が不十分な場合は、いじめにつながる可能性が高いことを担任に指導した。また、子供たちには、「困ったら先生に相談すること」を常に伝えるとともに、年間3回のふれあい月間のアンケートを確実に実施し、いじめの未然防止に全力を挙げてきた。

今後も、問題行動の未然防止と、確実な早期解決に向けて、担任のみならず、専科教員や特別支援教室教員、講師や支援員などすべての教職員が、「八小の子は、みんなの子」のスローガンのもと、児童理解を深めていく。また、「いじめ防止対策基本方針」(HPに掲載)に基づき、組織的に問題に対応していく。現在いじめの事案はないが、日常的な児童同士のトラブルや、個別の対応事案はある。引き続ききめ細かく対応していく。

不登校及び不登校傾向の児童については、学級担任と特別支援コーディネーター、生活指導主任、支援員などと連携し、管理職と情報を共有しながら組織的に対応した。オンラインによる発信や、「サポートルーム」での支援のほか、スクール・カウンセラーを介して家庭と連携するなど対応した。組織的な取組を粘り強く行っている。

また、本校では「人との関わりの中で思いやりの心を育てる学校」という方針のもと、宿泊学習や遠足、子供の集いといった学校行事など、全ての教育活動で、人と豊かに関わる活動を取り入れている。特別活動では、全校児童による異学年集団の「たてわり班活動」に取り組んだ。たてわり集会やあいさつ運動では、高学年児童の下級生に対する優しさやリーダーシップを育んだ。下級生も高学年に対して、頼りがいや憧れを感じており、関わり合いを通して、優しい気持ちを育むことができた。3月には、下級生が卒業する6年生に感謝の手紙を渡すことができた。

③「健康の維持、体力の向上を図る」について

〈経営計画より〉

- ・ 体力向上委員会を中心に、児童の体力向上に向けて組織的に取り組む。
- ・ 児童が体力の向上を実感し、主体的に体力を高めようとする取組を実践する。
- ・ 早寝・早起き・朝ごはんを推奨し、正しい生活習慣を身に付ける。

〈取組と自己評価〉

校庭の改修工事が1学期中に行われたため、校庭全面を使用できるようになったのは2学期からであった。10月初旬に行われた運動会では、子供たちが思い切り体を動かし躍動する姿や、大声で応援する姿が、保護者・地域の方々に喜ばれた。校舎2階のバルコニーから、校庭全体を望むことができ、大変好評を得た。水泳指導も、熱中症対策で実施できないときはあったが、夏季水泳のほか2学期初めまで行うことができ、必要な時数を達成している。体育的行事については、体育集会を中心に休み時間も使って、長なわを使った8の字跳びや、5分間ランニングなど、運動の日常化に取り組んだ。冬の時期も、短なわ運動を推進しており、子供たちは、自己の目標に向かって意欲的に取り組み、体力を高めている。

今後も、授業では運動量を確保して、運動の特性に応じた体力向上を図る。また外遊びを推奨するため、授業の終了時刻を守るよう周知し、児童の休み時間を保障していく。来年度は、体育の授業改善や体育的活動のマネジメントを組織的に行うとともに、体育主任にリーダーシップを発揮させ、児童が自己の体力向上に向けて楽しく取り組めるように組織的に運営する。

④「コミュニティ・スクールの推進」について

〈経営計画より〉

- ・ 地域と共にある学校として、保護者や地域の方々と協働する学校づくりを進める。
- ・ スクールコミュニティ協議会を中心に、保護者や地域の声を積極的に取り入れる。
- ・ 稲作活動や鼓笛活動など、特色ある教育活動を充実させ、持続可能な取組にする。
- ・ 学校便りやHPなどで、積極的に本校の教育活動を保護者や地域に発信する。

〈取組と自己評価〉

本校の特色ある教育活動である、稲作活動と鼓笛活動は、50年以上も続く伝統のある教育活動である。稲作活動では、今年も5年生が、春の種まきから苗とり、6月の田植え、10月の稲刈り、さらにその後刈り取った稲穂の脱穀から精米まで体験した。12月の収穫発表集会では、全校児童に、これまでの稲作学習をプレゼンにまとめて発表した。

今年度も伊藤久夫様、鈴木光男様、古川博文様をはじめ、本校の歴代PTA会長や現PTA会長、PTA役員の皆様と稲作ボランティアの保護者の皆様などたくさんの方々にご協力をいただき、充実した活動を行うことができた。なお、収穫祭のあり方については、現在検討中である。餅つきなどの行事は、地域の方々やPTAの皆様のご協力に支えられており、持続可能な方法を探っている。

鼓笛活動は、6年生全員による演奏活動である。毎週月曜日の全校朝会では、全校児童が、演奏に合わせて行進することで、心をそろえるという教育目標の達成に向けて、最上級生としての責任を果たしている。

秋の運動会では、マーチングドリルを発表し、新しく完成したバルコニーから、多くの地域・保護者の皆様に参観いただくことができた。10月からは、鼓笛活動を5年生に引き継ぐ準備に入り、先輩後輩にあたる師弟となり教え合う活動を継続した。5年生にも、楽器に託された思いを受け継ぐ気持ちが育まれた。2月17日(土)に「移杖式」を実施し、6年生は練習の成果を発表し、有終の美を飾った。鼓笛活動を受け継いだ5年生が、それ以降、意欲的に活動している。

学校公開は、毎学期に実施できた。本校が目指している教育目標を、地域・保護者の方々に広めていくため、道徳授業地区公開講座では、校長とPTA会長、地域の警視庁騎馬隊の宮崎いずみ警部の3人によるパネルディスカッションを実施した。「人との関わりの中で思いやりの心を育てる学校」をテーマに、積極的に八小の教育活動を伝えることができた。

また、学校便りやHP、スマート連絡帳などで、教育活動を多く発信し、地域・保護者の皆様のご理解とご協力をいただいた。保護者アンケートや、スクールコミュニティ協議会での評価を教育活動に生かし、今後も「共育」を推進し、連携の強化を図る。

今年度も、八小おはなし会の方々にご協力いただき、読み聞かせを行うことができた。是政囃子保存会の方々による体験学習も、2月に実施できた。次年度は、市制70周年の節目の年である。6年間を通して、ふるさと学習を推進し、地域の一員としての気持ちや、「府中っ子」としての自覚を育んでいく。

⑤「小中連携の推進」について

〈経営計画より〉

- ・ 近隣中学校との連携を密にし、9年間を見通した教育を推進する。
- ・ 小中連携コーディネーターを中心に府中第九中学校との連携を充実させる。
- ・ 幼稚園や保育園、保育所との連携に努め、小1プロブレムの解消に努める。

〈取組と自己評価〉

本校と府中第九中学校の2校で、研修会を実施し、年間3回の小中連携の日を計画的に行った。今年度は、小中互いの授業を参観し、協議会で議論しながら、共通理解を図ることができた。3学期には、府中第九中学校の教員が本校の6年生に出張授業を行い、中学へ向かう心構えを育むよい機会になった。次年度も、学習や生活上の課題について話し合い、9年間の学びと育ちの連続性を見据えながら共通理解を図る。

本年度の重点目標と方策（数値目標）保護者アンケートの結果より

- ① 学校の方針、教育活動、児童の様子を積極的に伝える（90%以上）

【95%】（「よくできている」「できている」の回答割合の合計値。以下同様。）

今年度は、人数制限をしないで、学校にお越しいただくことができるようになり、運動会や展覧会、移杖式など、全校児童が一斉に活動する様子をご覧いただくことができた。特に、校庭全体を見渡せる広々としたバルコニーから、児童の活動の様子をご覧いただけたことは、とても喜ばれた。高評価をいただいたが、「よくできている」の評価がさらに高まるよう広報活動を改善していく。

- ② 通知やメールなどで、児童の安全にしっかり取り組む（95%以上）

【95%】

今年度から完全実施となったスマート連絡帳の積極的な活用により、情報発信力を高めることができた。99%のご家庭に登録をしていただき、緊急連絡体制を整えることができた。できるだけ事前に、情報を提供しているが、感染症による学級閉鎖の場合、当日の給食後下校となることもあった。災害や不審者等への危機管理体制を引き続き整え、迅速かつ組織的に対応していく。今後とも、通知やメールの確認等、ご理解とご協力をお願いいたします。

- ③ 児童が学習しやすい環境を整える（80%以上）

【95%】

校舎改築事業に伴い、これまで仮設校舎で2年7か月教育活動を行ってきた。そしてようやく今年度から、完成した新校舎で学校生活を送ることができたこと、関係各位に感謝申し上げます。天井から光が差し込む明るい教室、広い廊下、活動しやすい特別教室、開放的な昇降口など、素晴らしい環境になったことが、高評価につながっていると考えている。今後も学校を広く開放し、学校公開などでは、新校舎の環境を、より効果的に活用した学習の様子をご覧いただきたい。引き続き「建てたときより美しく」を合言葉にして大切に使う。

- ④ 稲作活動や鼓笛活動など、特色ある教育活動を充実させる（80%以上）

【99%】

稲作活動では、今年度も引き続き、地域協力者の皆様にご指導いただいた。本校

の大先輩で、長年この活動に携わっていただいております。スクールコミュニティー協議会委員としても、学校を支えていただいている。新校舎を活用して、脱穀糶摺作業も無事に行うことができた。猛暑により収穫量が減ったことから、気候と植物の成長とは、密接にかかわりがあることも学ぶことができた。

鼓笛活動では、運動会や移杖式での演奏を、大々的に発表できたことが、高評価につながったと考えている。前述のバルコニーから、児童の様子を参観できることを、喜んでいる保護者がとても多く、設計や建設に携わってきた、多くの関係者の苦勞が報われたことは感無量である。今後も積極的に、特色ある教育活動を広報していきたい。

⑤ 来校対応、電話対応、連絡帳対応を誠実に行う（90%以上）

【95%】

昨年度より5%高めることができたが、学校は、保護者や地域の皆様とともに、子供を育てていることを忘れず、接遇対応については、さらに丁寧に誠実に行いたい。お子さんのことでご相談があるときは、遠慮なく、学校までご相談ください。

⑥ 学習内容を丁寧に教え、学習意欲を高めている。（90%以上）

【92%】

「よくできている」が39%、「できている」が53%であった。学校は、学びに向かう力を育てるところであり、今、児童の主体性の育成に力を注いでいる。児童が受け身ではなく、自ら主体的に学ぶことができるように、次年度は学校全体で、指導に力を入れていく。タブレットをツールとして活用した学習について、研究開発しているところであるので、児童が自らの学びに効果的に使えるよう、使用のルールも含めて、今後推進していく。また、算数では、3年生以上で、習熟度別の少人数学習を取り入れているので、一人一人の学習の理解度を確かめながら、つまずきに対応して、学び残しのないようにしていく。

⑦ 児童の声に耳を傾け、しっかり受け止めている（90%以上）

【93%】

アンケートの自由意見では、温かいご意見が多く励みになりました。「よくできている」が36%に対し「できている」が57%であったので、「よくできている」と支持していただけるよう、担任だけでなく、すべての教員が、八小の全児童に気を配り、心配な時には積極的に声をかけていく。毎朝教室で出迎え、休み時間は見守るように体制を整えた。トラブルがあった時だけでなく、日頃から子供たちとコミュニケーションを多くとり、信頼関係をより強固なものにしていきたい。

⑧ 子供たちは、毎日楽しく学校に通っている（95%以上）

【85%】

「学校が楽しい。」ということは、学校とご家庭、地域すべての願いだと考えている。95%を目指したが、目標の数値に達していない結果となった。学校は、いじめ防止対策方針に則って、アンケートなどを実施して、児童の困り感に、対応してきた。さらにきめ細かく対応し、「楽しくない。」と思う子供の心のあり様に気付いていけるよう努力していく。また、漠然とした不安を抱えて、学校に気持ちが向かない児童もいるので、サポート体制をつくり、八小の児童一人一人が、自分らしく学校で過ごせるように、心に寄り添っていく。

- ⑨ 毎日10分×学年の時間、家庭で学習（宿題を含む）をしている（90%以上）
【74%】

昨年度とほぼ同様の結果となった。引き続き学習習慣の確立という点から、学校では、学年担任が相談しながら、発達段階に見合った内容を、宿題として出していく。特に「読み、書き、計算」の基礎的な力の定着は、家庭学習での復習も大切であると考え、10分×学年という時間については、今後検討していく。

- ⑩ 子供たちは、楽しく読書に取り組んでいる（80%以上）
【48%】

「よくできている」と「できている」を合わせて50%を下回る結果となった。読書に親しむ習慣をつけることは、小学校の6年間を通して大切だと考えている。新校舎では、「図書室」を「メディアセンター」と名称を替え、明るく、広く、使いやすくなり、蔵書の新しい本も増やし、データ管理して、貸出を充実させた。

次年度は、さらに蔵書を充実させ、日頃から読書を推進し、読書月間を充実させるなど全校で読書指導に取り組む。今年度も、おはなし会のボランティアの皆様により、読み聞かせを行っていただき感謝申し上げます。

2 予算の活用状況

(1) 府中市「学校経営支援予算」について

配当額 5,252,000円（サポートルーム運営予算を含む）（執行率97.1%）

【内訳】

- 学習支援員3名（1・2年算数指導補助）執行率31%
- 学校図書館支援員1名（図書室の整理整頓、担任指導補助）執行率12.2%
- 生活指導支援員4名（学級支援、児童の相談相手）執行率53.9%

〈取組と自己評価〉

算数TT指導については、ベテランの支援員を配置し、1・2年生で実施した。担任の補助や学習の積み残しが無いよう担任と連携した指導を徹底し、学力の向上を図った。

学校図書館支援員は、図書室の図書管理を行い、新しくなった図書室の良好な学習環境を整えた。また、担任が学習で必要としている資料等を提供するなどの活動を行い、年間を通して計画的に学習を支援した。

生活指導支援員は、児童の基本的な生活習慣の定着のために、児童に寄り添う支援を行った。低・中学年を中心に必要としている学年、学級に配置した。

(2) 府中市「副校長等校務改善支援事業予算」について

配当額 1,937,600円 (執行率100%)

○校務改善支援3名

○業務内容

- ・副校長事務補佐・校舎職員室等環境整備・諸資料整理 (ファイリング)
- ・学習支援員予算事務・諸調査報告事務
- ・教科書事務・転入転出事務・印刷事務 ほか

〈取組と自己評価〉

副校長や教員の業務を助けていただいた。副校長の校内巡視や児童への指導、教員の人材育成にかける時間を確保できた。印刷、出退勤管理などを担当することにより、副校長や教員の事務時間を軽減し、児童や保護者への対応に取り組む時間が捻出できた。

(3) 「未来へつなぐ府中2020レガシー予算」について

配当額 100,000円 (執行率100%)

【内訳】

○講師謝礼 98,000円

○鼓笛活動備品 2,000円

〈取組と自己評価〉

持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力を育成する「未来へつなぐ府中2020レガシー」として、昨年度より取り組むこととなった。本校では、鼓笛活動を中心にオリンピック・パラリンピックの精神に基づいて、鼓笛活動から豊かな国際感覚をはぐくむための選曲を行い、運動会や移杖式での発表を行った。また「ふるさと府中」に目を向け、府中の歴史について調べ学習を行ったり、稲作の体験活動を行ったりして、歴史・文化・伝統を引き継ごうとする心を育んだ。

(4) 東京都「学校と家庭の連携推進事業予算」について

配当額 354,960円 (執行率100%)

【内訳】

○支援員 327,600円

○スーパーバイザー 18,000円

〈取組と自己評価〉

学校生活の中で友達とのかかわりに困り感をもつ児童や、授業中に集中力が継続できない児童などに寄り添い、きめ細かい声かけやアドバイスなどの支援を行ってきた。次年度は、家庭との連携を強化して、担任とともに児童に寄り添うことに力を入れたい。

また、スーパーバイザーを、本校のスクール・カウンセラーが担当した。カウンセリングマインドの大切さや、保護者の思いや願いを理解し、気持ちに寄り添って丁寧に対応することの重要性について、心理学の専門的な立場から、教員に助言する機会をもつことができた。

以上